

平成30年第2回定例会（9月議会）
予算及び付託議案審査関係資料

平成30年9月14日
あきた未来創造部

【予算関係】

あきた未来戦略課、次世代・女性活躍支援課		
	社会的要因等による少子化調査・分析事業 について（新規）	・・・ 1
高等教育支援室	新たな木質部材研究開発施設等整備事業に ついて	・・・ 3

社会的要因等による少子化調査・分析事業について（新規）

あきた未来戦略課
次世代・女性活躍支援課

1 事業の目的

合計特殊出生率や出生数など少子化に関連する指標が低位で推移していることから、少子化対策や子育て支援の取組の効果検証等を行うとともに、少子化に影響を与える様々な要因を詳細に分析し、より地域の実情に即した効果的かつ効率的な対策等に反映していく。

2 事業内容

(1) 少子化・子育て支援に関する県民意識調査事業（次世代・女性活躍支援課）

結婚や子育てに関する意識や、これまでの少子化対策・子育て支援事業の効果について、調査・分析する。

① 調査項目

結婚や子育ての希望、子育て環境、経済的負担など

② 対象者

未就学児～高校生の保護者、大学生、独身の就業者（約7,000人）

(2) 少子化要因調査・分析事業（あきた未来戦略課）

合計特殊出生率の地域間格差について、市町村ごとに社会経済要因を調査するほか、既存の統計数値などから推計することが困難な地域特有の要因について、社会的アプローチにより調査・分析する。

① 社会経済要因（統計数値等）

収入や正規職員比率、保育サービス、持ち家比率、三世帯同居率など

② その他の要因

地域における結婚観・家族観、風習など

3 予算額

(1) 少子化・子育て支援に関する県民意識調査事業

2,456千円（ \ominus 2,456千円）

〔 委託費 2,456千円 〕

(2) 少子化要因調査・分析事業

5,265千円（ \ominus 5,265千円）

〔 委託費 5,032千円
旅費 233千円 〕

【参考】

調査・分析イメージ

調査方法・内容

施策への反映

直営

少子化施策の実施状況

各市町村で実施している少子化施策の実施状況を調査・分析

(1) 意識調査

県民意識調査

①未就学児～高校生の保護者②大学生、独身の就業者を対象に結婚や子育てに関する意識、施策の効果について調査・分析

(2) 要因調査・分析

社会経済要因（統計数値等）

社会経済要因を市町村ごとに数値化して調査・分析（既存の統計数値からピックアップ）

その他の要因（学術的調査）

数値化されていない社会学的要因などについて、学識経験者の助言を得ながら調査・分析

①市町村施策、②住民の意識、③社会経済要因の影響、④社会学的要因などの影響を調査・分析することで、地域ごとの事情や特性を把握



- ・あきた未来総合戦略の改訂に反映
- ・3期プランを加速化させる予算に反映

新たな木質部材研究開発施設等整備事業について

高等教育支援室

1 目的

土木分野での利用を目的とした木質部材の研究開発を促進するため、秋田県立大学が行う木材高度加工研究所の施設整備等に対し助成する。

2 事業内容

(1) 主 体 公立大学法人秋田県立大学

(2) 補助率 県10/10

(3) 整備概要

木材高度加工研究所の材料加工棟（北試験棟）を増築し、橋梁の床版へのCLTの利用に向け、床版の耐久性等を評価する疲労試験機を整備する。（別紙参照）

内 容	事 業 費	備 考
材料加工棟増築 (鉄骨造平屋、一部2階建)	82,545千円	【増築面積】 約230㎡
疲労試験機導入	14,040千円	【規格】 横3m×奥行1.5m ×高さ4m
計	96,585千円	

3 予算額

96,585千円 (国48,292千円、県43,400千円、市4,893千円)

国：地方創生拠点整備交付金

県：一般補助施設整備等事業債（充当率90%）

〔 補助金 96,585千円 〕

橋床版へのCLTの利用について

1 背景等

国や地方自治体等が管理している道路橋梁（橋長2m以上）約73万橋のうち、耐用年数（建設後50年）を経過している橋梁の割合は現状で約25%であるが10年後には約50%に拡大する。

これらの橋梁の主な劣化要因は床版損傷であり、床版を軽量で施工性に優れたCLTに代替することで、架替や大規模改修に係るコストの抑制等が期待される。

2 取組内容

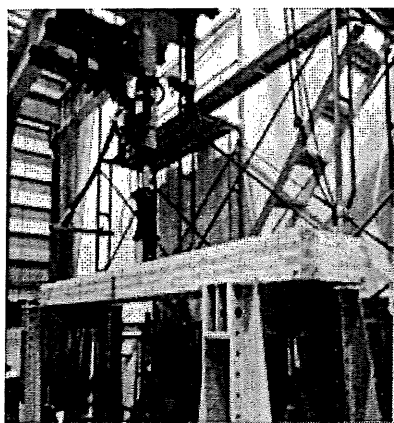
疲労試験機

木高研の特許技術等を活用して研究開発したCLT試験体に対して、設計荷重を繰り返し与えることで、耐久性等評価

※特許技術

- ・防水性、防腐性を維持するためのラッピング加工をCLTに施す技術
- ・小型のCLTを接合し、大判化する技術

○疲労試験機のイメージ



※試験体に数十万回の荷重を与えることで、自動車走行時等の橋梁への荷重を再現

現状

- 特許技術等を活用した研究を実施
- 実証研究データを蓄積
- 作業用道路等における実証試験を県内2カ所で開催

【作業用道路（田沢湖）での実証試験】



- ・竣工：平成29年3月
- ・橋長：7m
- ・使用したCLT：5.06㎡

当面の目標

- 実証研究データの蓄積を加速化
- 作業用道路等における実証試験を県内全域に拡大

今後の目標

- 小規模農道橋、林道橋への利用
〈設置基準：土地改良事業計画設計基準 林道技術基準〉

※小規模農道橋とは、支線農道や耕作道において用排水路等に架設する農道橋で、1車線かつ車道幅員5.5m未満のものなど

- 農道橋への利用
〈設置基準：道路構造令に準拠〉

- 国道、県道、市町村道の橋梁への利用
〈設置基準：道路構造令〉

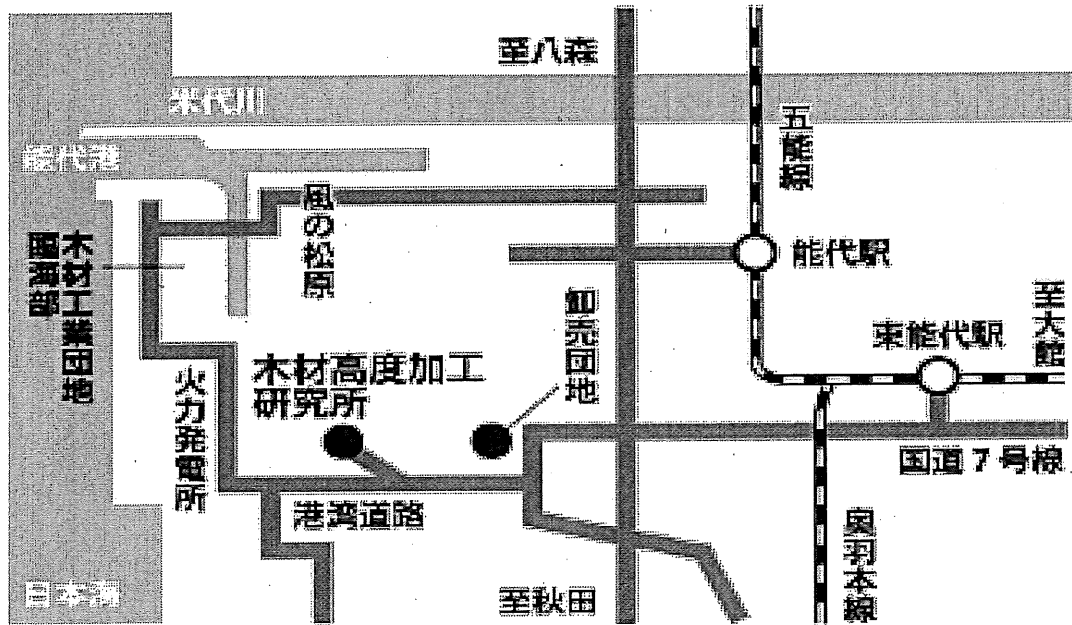
低

設置基準のレベル

高

(参考)

○ 木材高度加工研究所位置図



○ 材料加工棟増築平面図等

